

[長崎県病院企業団通信]



ふくよか

2014秋号

■長崎県病院企業団本部
■平成26年11月発行

目次 CONTENTS

p2..... 企業長より

長崎県病院企業団通信 『ふくよか』
創刊にあたって

p4..... 特集① 看護指導監のお仕事紹介

高口真理子看護指導監に、看護師確保の
現状と課題について語っていただきました

p6..... 特集② 知りたい! 企業団の経営状況

グラフでわかりやすくご紹介します

p7..... 地域から

第1号は五島中央病院!

p8..... Break Time

[昨今のコトバ考]

vol.
01

長崎県病院企業団通信

『ふくよか』創刊にあたって

病

院企業団が設立されて、5年半が過ぎました。すでに各病院では独自の広報誌が発行されており、それぞれ特徴ある記事を興味深く読ませてもらっています。本部でも、企業団全体で共有してほしい情報を発信するために発行することになりました。

編集長は副企業長、副編集長は総務人事班課長補佐が務めます。その下で4名の女性たちが編集委員として、春夏秋冬年4

回の発刊をめざし、活躍してくれることになっていきます。広報誌の第一面は、企業長コーナーとして用意していただきましょう。以後よろしくお付き合いください。

あ

て、最近読んだ本で興味を持った話題があったので、創刊号に書いてみることにしました。

-
-
-

日本の考古学者がイスラエルの



企業長 米倉正大

ある遺跡の発掘をしていた時のことである。古代の墓地から頭蓋骨を含め人骨がザクザクと出てきた。こういう場合、必要なサンプル以外の人骨は、遺跡から少し離れたところに投棄するわけだが、その作業を2人の日本人と数名のユダヤ人が毎日行った。それが1週間ほど続くとユダヤ人の方はどうもなかつたが、2人の日本人は少しおかしくなり、最後には病人同様になってしまった。ところがこの2人は人骨投棄作業が終わると、ケロッと良くなった。

-
-
-

この2人はクリスチャンでしたが、日本的に言えば『おほらい』が足りなかった、という結びになっていました。人骨といえども科学的に言えば単なる物質です。しかし人骨が心理的な影響、ひいては身体的病状をも悪化するほど大きな影響を与えたということなのです。

この2人は日本人の中でも特別だったのでしょうか。われわれ日本人は諸外国人に比べ、人骨に限らず、ものの背後に何かが存在しているという感じを強く感じる民族なのではないでしょうか。

昨日 今話題になった死体からの臓器移植が、制限つきではありませんが日本でもようやく法律で許可されるようになりました。

私も臓器移植には長くかかりあつてきましたが、非常に長い道のりでした。これには日本人の生死感が大きく影響したと思っています。

2 025年問題がクローズアップされている今、若い人2・4人で高齢者1人の面倒を見なければならぬ時が近づいています。

これから先、日本人は高齢者がその終末期に経験する尊厳死について真剣に考える時に来ているのではないのでしょうか。

《 本部 朝礼 の ひ と こ ま 》

本部では、毎月1日に朝礼を行っています

写真コーナー



企業長のお話が続いて、月替わりで職員1名が自らの業務報告などを行います。





— 看護指導監のお仕事紹介 —

看護師確保の現状と課題とは？

— 文・高口 眞理子

「看護指導監」の役割とは、どのようなものなのでしょう？
高口看護指導監に想いを語っていただきました。
今回は、シリーズ“話題の職員紹介”のコーナーとあわせてお送りします。

皆さん こんにちは はじめまして。看護指導監の高口眞理子と申します。今年の5月より企業団本部で「看護指導監」として職務に就いております。長崎県における8病院3診療所を有する病院企業団で働かせていただき感謝申し上げます。どうぞよろしくお願ひ致します。

このたび 病院企業団本部から広報誌が創刊されることとなり、図々しくも第1号に私の自己紹介と、長崎県病院企業団に入職してからの所感を載せていただきました。不躰ではございますが、紙面を借りてご挨拶申し上げます。

長きにわたる 旧国立病院勤務を経て 「看護指導監」へ

私の看護職生活は、約40年前の旧国立病院入職から始まりました。福岡を出発点とし、九州8県のうち6県に赴

任し、長きにわたり勤務させていただきました。九州管内の国立病院機構28病院とハルセン療養所5施設の転勤範囲の中で、10ヶ所目の勤務地となった長崎医療センターを最後に、私は卒業いたしました。急性期病院から療養型病院まで、全く機能が違う病院で看護管理を学べたことは、貴重な体験だったと今になって感慨にひたつているところです。多くの方々とお会い、ふれあい、助けられ、その地域の風土に癒されて、最終ゴールまで達することができたのは、みなさまのおかげと感謝しております。

現在は、企業団病院の概況や看護概況、非常に難しい離島等の看護師確保状況等を知り、この状況の中で何ができるかを考えますと、職名からして責任を感じています。微力ではありますが、経験を活かして、できることから頑張っていきたいと思っています。

役割は人材育成と確保 そして現場と本部との 「調整役」

さて、私の「看護指導監」としての使命は大きく2つあります。それは「人材育成」と「人材確保」です。加えて、各施設の看護現場からの意見を聴きとり、企業団本部へとだけ伝え、また本部からの運営方針や企業長のビジョン等を各施設に伝える「調整役」を担います。

例えば、病院企業団の組織目標は、職員一人一人が共通認識をもって業務を遂行するうえでの「方針・指針」になるものかと考えます。各施設においては、それぞれが果たすべき役割や地域に求められる立場、環境の中で安定した医療の確保・維持と経営改善に取り組まれています。このような事情を「企業長の思い」に乗せて看護部門へ発信していきます。

また、看護師確保においても、地域医療を取り巻く環境の変化は厳しさを増しています。簡単に人材確保、人材育成と唱えても実現するものではありません。最近では、看護の専門性が強く求められ、専門看護師や認定看護師を目指す看護師も増えつつありますが、地域においては専門性を強く期待される反面、超高齢化と人口減、10年後20年後には働き手がいなくなるという課題も抱えています。

人員不足の中、 人材育成と看護の質を 両立させるには

今後の取り組みの一つとして、企業団病院の「人材」を育成し、質の良い看護が提供される職場環境を作っていくかなければと考えております。そのためには、研修教育制度・サポート体制を確立し、格差の無い一体化された「質」を確保することが必要になると考えます。

しかし、職場で決まってしまうのは、人手不足による看護業務の煩雑化と看護の質

の両立です。現状の人員の中で研修・勉強を優先させれば人がいなくなる。業務を優先させれば、質や安全性の確保が犠牲になると考えられます。これは病院経営にも関係し、安全性の確保、教育にも深く関係します。一見、対立するかにみえますが、そうではないと考えています。

経営がうまくいかないと、人も器材も確保できません。医療や看護の質・安全性が保てないと「人」は集まりません。ひいては、地域や地域住民の方からも選ばれず、病院経営がうまくいかないことになりま。この両立は現実的に大変難しいものです。それぞれの部署（職場）が状況に応じて、業務軽減・改善の方策に知恵を絞り実践していかねければならないかと思えます。キメの細かい現場の工夫を、地道に積み重ねることが「キーkey」になるかと思えます。

PROFILE

高口 眞理子（こうぐち・まりこ）

福岡県大牟田市出身。1975年に国立福岡中央病院付属高等看護学校を卒業後、国立福岡中央病院（現・九州医療センター）に就職。1984年看護師長昇任。

その後も副看護部長、看護部長を歴任し、2014年に赴任10ヶ所目である長崎医療センターを退任した後は、長崎県病院企業団の「看護指導監」として、研修教育制度や働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。



この取り組みが実を結べば、研修教育体制が充実した働きやすい環境となり、多様な教育・学習資源を有する長崎県の企業団病院を「学びの場」として、全国から「やる気」のある看護師、「働きたい」と思う看護師が集う病院になると信じています。



H26年7月 新規採用職員研修の様子。
職員研修では、人材育成はもちろん、企業団全体の「一体感」を醸成することも目標にしています。
12月には中堅職員研修を予定しています。



【平成26年度上半期】

知りたい！企業団の経営状況

以下の棒グラフは、企業団の平成26年度上半期の主な経営指標です。

患者1人あたり単価は昨年度に比べやや増加しましたが、新入院患者数の減少（対前年比 Δ 0.4%）に伴い、病床利用率と患者数は前年を下回り、医業収益は約1億5千万円減少しています。



内科医の減少や療養病床の縮小等の影響で、対前年比 Δ 0.4%



0.3ポイント増も奈留病院の診療所化による病床数の減が影響（奈留を除く比較では1.3ポイント減少）



医師不足、療養病床の縮小、人口減少等により対前年比 Δ 2.0%



医師不足による長期処方の増加や人口減少等により対前年比 Δ 2.4%



患者数の減少により対前年比 Δ 1.2%



患者数の減少により対前年比 Δ 2.2%



療養病床の縮小等により対前年比+0.8%



ほぼ前年並みで推移し、対前年比は+0.2%

経営力をはかるうえで、新入院患者数は最も重要な指標です。
地域の皆さんに信頼される病院づくりを通して、新入院患者数の増加につとめましょう！

{シリーズ}

地域から

..... Vol.1

五島市 (五島中央病院)

地域の見どころや病院での取り組みなどについて
紹介していただくコーナーです



▶五島市について

五島市は人口約4万人で五島列島最大の島、「福江島」を含む11の有人島からなり、豊かな自然に恵まれて、地域の子供たちも伸び伸びと育つような環境にあります。

五島市といえば、日本の渚100選にも選ばれた「高浜海水浴場」をはじめとした綺麗な青い海という印象が強いのではないかとと思いますが、他にも「五島牛」や新鮮な魚介類、五島産の焼酎をはじめとしたグルメ、大手化粧品メーカーのシャンプーにも使われている「五島椿」、「バラモンキング」や「夕やけマラソン」に代表されるようなスポーツ大会、2016年の世界遺産登録が有力視されている教会群、「福江まつり」を代表とした、各地域で行われている祭など見どころは沢山あります。

また、最近では、映画「悪人」、「捨てがたき人々」、来年2月公開予定の「くちびるに歌を」の撮影など、ロケ地としても有名になりつつあります。

実際の暮らしはどうかといいますと、大型スーパーやコンビニ、ファミリーレストラン、レンタルDVDショップといった生活に密着する環境は整っています。五島メロン・五島トマト・山内米・五島茶など新鮮な果物、野菜、米も安く手に入り、日常生活で不便に感じることはありません。

▶五島中央病院について

当院は、平成14年2月に現在地へ移転し、既に12年経過しました。

五島市における中核病院（304床）として、救急をはじめとした医療提供の中心となっており、近年ではMRI・アンギオの更新、今年の3月には電子カルテを導入するなど、最新の医療を提供することを心掛けています。当院では、2.5次救急までは対応できますが、3次救急が必要な場合は、ドクターヘリなどで本土の病院へ搬送しており、そのためヘリポートも整備しております。

また、医療従事者確保のために、長崎大学をはじめとした全国の医学生の実習や五島高校衛生看護科の講義・実習も行っており、近々院内保育所を備えた看護師寮もできる予定です。

五島の高齢化率は34%であり、今後若者を中心とした人口減少はさらに進むことが考えられます。当院は、五島の医療や介護について行政、医師会、福祉施設などと共に島全体で患者さんを支える、“島がひとつのホスピタル”となるように努力していきたいと考えています。



昨今の「コトバ」考

「歌は世につれ、世は歌につれ」といいますが、「コトバも世につれ」ですね。いくつか例をあげてみましょう。

「すごい」

「すごい楽しい」、「すごいまい」など、本来の「すごく」が使われなくなっています。スポーツ選手がインタビューなどで使っていることから若者に浸透し、それがだんだんとその上下の層にも広まっているようです。

「みだいな感じ」

言い方を柔らかくしたいとか、表現をあいまいにしたい・少しぼかしたいという現代の風潮でしょうか。ただ、仕事での報告でこれを使われると困ってしまいますね。

「されてください」

主に、サービス関係の仕事に携わっている人が使っているようです。文法上の分析は諸説あるようですが、違和感はぬぐえません。若い女性から言われると悪い気はしないというおじさん（私も含めて?）も多いのかもしれませんが……。

「させていただきます」

尊敬語の一つ（謙譲語）であり何も問題はないのですが、ひんぱんに使ったり、「買わせていただきました」のように「??」という例がよく見受けられます。今のようにひんぱんに使われだしたのは、海部総理の演説（爽やかな印象あり）が契機、というのが私の独断です。敬語は難しいので、さしあたって「させていただきます」と言っておけば無難、との思いもあるのかもしれませんがね。

以上、いくつか例をあげましたが、社会人としてはできるだけ正しい言葉づかいにつとめたいものです。ただ、冒頭に記したとおり、文法も時代時代で変わっていくもの。流行にしたがっていくか、従来の正しい使い方にこだわるかは、もしかしたら時代への順応性の一つの目安なのかもしれません。いずれにしろ、話し言葉は、相手を敬う気持ちがかつとも大切なことは言うまでもないことですが……。

（文：副企業長 川良数行）

編集後記

みなさん、こんにちは。

このたび、企業団本部より「長崎県病院企業団通信 ふくよか」を発行する運びとなりました。

本部と各病院等、各病院等間をつなぐものとして、季刊で発行します。

表紙の題字は米倉企業長の書によるものです。

企業団職員のみなさんに親んでもらえる広報誌をめざしますので、

よろしく願います。

（編集担当：本部 山野井・村松・山田・金子）



ふくよか

表紙のはなし 長崎くんち
「長崎くんち」は長崎の氏神「諏訪神社」の秋季大祭。今年の踊町の一つ、五嶋町の龍踊には、青龍に加え、銀色に輝く白龍も登場しました。

平成26年11月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索